

養育里親

～もうひとつの家族～

12

坂口 伊都

大波小波

養育里親として暮らし始めて、半年が経とうとしています。早いような、やっとここまで来たような両方の想いを感じています。先日、この子と私達夫婦が初めて外出をした里親会の新年会に1年ぶりに行きました。当時は、初めての外出ということで3人とも緊張して、新年会に参加したことを思い出しました。

養育里親としてこの子と暮らし始めてから皆さんの話を聞くと、戸惑いの中で悪戦苦闘しながら生活をしている様子が実感を持って伝わってきて、私達だけがアップアップしているわけではないのだと感じました。新年会の参加人数が、大人と子どもを合わせると40人を超えていて驚きました。去年よりもさらに参加人数が増

え、賑やかな新年会を目の当たりにすると、里親に対する社会の意識の変化が伝わってきます。その大きな要因として、児童相談所のワーカーの里親に対する意識の変化が大きく関わっていると思います。

子どもの居場所として、里親宅が選択肢としてカウントされていくことは大事だと思いますが、中途養育は養育経験があっても無くても、子どもを育てていくことは簡単ではないことを再確認していく必要を感じています。新年会の自己紹介で私が、「イライラしたり、喧嘩したり、仲直りしたり、毎日ジェットコースターに乗っているような日々を過ごしています」と話すと、うんうんと頷いてくれる里親さんがいました。里親をしている方の年齢も様々です。お孫さんを連れて来られて、これからできることとして養育里親を目指している方がいました。これか

ら児童養護施設で実習をするそうです。夫さんにもこにこと笑い、妻と同じですと話されていました。その笑顔が何とも晴れやかで、素敵でした。そんな方々と出会うと励まされます。

この正月に残念な経験をしました。「その後どう？」と気遣ってくれる方もいましたが、子ども達と新年の挨拶を交わしているのにも関わらず、里子にだけお年玉を渡さない人がいました。ドラマなどでは、そういう仕打ちをする人がよく描かれますが、現実社会でも変わらないことが身の回りで起こるのだと知りました。里子本人が、お年玉をいろいろな大人からもらうことが初めだったので、その一部の人が意図的に渡されなかった事実気づかなかったのが救いです。もちろん、うちの子 3 人にそれぞれお年玉をくれる方がほとんどでしたから、気づきにくかったのだと思います。この子が傷つかなければ、何でもいいやと開き直りましたが、いろいろあるものだと改めて思い知らされました。里親登録の頃から相談に乗ってもらっている知人がいるのですが、私のエピソードを聞いて「日本で養育里親をするって、本当に難しいことなのだね」としみじみ言われました。徐々にですが、里親が世間に知られるようになってきつつあります。しかし、日本にはまだまだ社会的養護の場で暮らす子ども達に偏見があったり、差別的な扱いを受ける事実があります。

実際に養育里親をして一緒に暮らし始めていろいろな波を感じているところです。今回は、この子と里母の私の中で起きた衝突について書いていきたいと思います。どうぞ、最後までおつきあいください。

試練？

子どもと暮らし始めて、初めの 3 ヶ月はお互いに慣れない状況と緊張で過ごし、その後から

いろいろな諍いが起こり始めると言われています。いわゆる「試し行動」というやつです。我が家も御多分に漏れず、この状況に陥りました。試し行動だと推測がついても、どのように対応していけばいいのか書かれた本が見当たりません。その子によって表出の仕方が違うので書き様がないのでしょうか、養育をしている当事者は「頭でわかっているけどどうすればいいのよ」が本音です。

我が家では、この子に〇〇しようねと言うと動かなくなる、止めなさいと言えどわざとやっているように見える、犬の扱いが乱暴、反抗的な態度が出て、返事は「あっ、そう」になることが増えていました。この子も含めて、家族全体がイライラする時があり、里母の私は、自分の言うことを特に聞かないと感じ、イライラを募らせていました。娘、夫、知人共に口をそろえて、この子が私の言う事を聞かないのは、私が特別な人だから甘えているように見えると言ってくれましたが、その時はどうしてもそんな風には感じられません。それどころか、私のことが嫌なのだろうなとしか思えない。自分自身の状態がいい状態にないと感じていたので、この子に何か注意をしなければならぬ時は、できるだけ他の家族に言ってもらうようにしていました。どうしていったらいいかなと冷静に考えている私とイライラが蓄積されていく私の両方がいました。

そんな時、この子が宿題の途中でゲームをしようとしていたので、宿題が終わるまでゲームを預かろうとすると、力づくで手元に持っておこうと抵抗しました。宿題が終われば返すのに、何故ここまでするのかと不思議でしたが、力づくで保持することをここで許してはならないだろうと判断しました。私は体育会系ではないので、身体を張ることは避けたかったのですが、ゲームの取り合いをすることにしました。取り合いになっている間も、果たしてこの方法でい

いのかと、どこかで冷静に考えていましたが、咄嗟の判断をしていかなければなりません。また間が悪く、家の中にはこの子と私の二人だけで、間に入ってくれる家族もいない中、この子がものすごい力でゲームを引っ張るので、「何故、父ちゃんなら渡すのに母ちゃんには渡さないの?」と言うと、その瞬間に力が緩みました。この子自身も何かを感じている部分だったようです。それが、男性と女性の違いなのか、言う事を聞く人の優先順位があるのかわかりませんが、何かがあるようです。

ゲームを確保すると、次にテレビをつける、消すの繰り返しが始まりました。私が消すと、この子がつけるので、「テレビ、つけません」と言いましたが、聞き入れません。そこで起こったのが、リモコンの取り合いです。「あ〜、悪循環だ」と思いながらも今更、引き下がれません。リモコンバトルが終わると、今度は犬を触りに行きます。「もう…」と思いながら、「犬触りません。自分の部屋で少し考えてきて」と言っても、誰が言うことを聞くものかとなっていくます。仕方がないので、犬を別の場所へ移動させ、犬に触れないようにしました。私とこの子が接触し続けてもバトルになるので、この子から離れて犬と台所にいると、2階に行くのではなく玄関の外に出て行ってしまいました。「大丈夫かな」と不安になりながらも、今は距離を置いてクールダウンすることが得策だろうと思い、追いかけていませんでした。

この子を追いかけない代わりに「ごめん、この子とバトってしまった。誰か帰ってきて」と家族にSOSを出しました。そこに帰ってきてくれたのは娘でした。娘にその辺りにこの子がいないか確かめると、玄関の前にいました。娘は、「どうしたの?家入ろう」とこの子に声をかけますが、「あいつがいるから入らない」とこの子が言います。「あいつじゃないでしょ。ママでしょ。宿題すればいいだけのことでしょ。見てあ

げるから」と上手に声かけをして家へ誘導してくれました。娘が、スーパーマン、女神、救世主に見えました。娘の誘いに乗り、この子も何事もなかったかのように宿題を見てもらっています。この子の怒りという感情は、どの程度のものなのだろうと疑問に感じました。次の日になれば、何事もなかったかのように振舞うのだろうか。現実のトラブルに直面しないで、テレビをつけたり、犬を触ったりしてごまかしているようで気になります。この子のことに関してわからないことが山積みです。

その後は、この子と娘、私の3人で落ち着いた雰囲気での夕食になりましたが、この子からゲームの話が出てこなかったので言い出すまで待とうと思い、ゲームを返しませんでした。夫がこの日は、帰りが遅く、次の日は朝早くに出ていく勤務だったため、家族での話し合いは次の日の夜までお預けになりました。

翌朝、この子が起きてきません。あまり言わない方がいいだろうと思い、「時間だよ」という程度の声かけをしましたが、布団をかぶり起きようとしません。あまりに起きてこないで、これは学校に行かない可能性が高いと、仕事を休む覚悟を決めました。学校に遅刻していけるか、それとも休むのか。休むとなると、私とこの子の二人で長いこと過ごさなければならない。「さて、どう過ごせるか」と考え始めていました。困りましたが、この子が昨日の怒りや気まぐさ、納得のいかなさを今朝も覚えて抱えているのだとわかり、ホッとした一面もありました。

この子が布団を頭までかぶっている姿が、何となく待っているように感じたので、そっとめくって「起きないの?」と声をかけその場を離れました。様子を伺っていると、ごそごそと起き出して朝食をとり、学校に行く支度を始めました。そして、私の所に来てぶっきらぼうに「今、何時?」と聞き、「〇〇分だよ」と答えると自分から登校して行きました。

私は、昨夜眠れなかったし、今朝になって身体のあちらこちらが痛いし、何とも言えない辛さを感じながら過ごしていました。この子は、どんな気持ちで今日一日を過ごしているのだろうと思いを巡らせ、これから一緒にやっつけていけるのだからと不安が募り、この出来事は避けては通れなかったのか、私の対応を変えるべきだったのか…。答えは出ませんが、このような体を張ったバトルは、これ1回きりでこれ以上必要ないということだけは、思い切れました。

握手

家族には、事の次第を伝えていました。私が、引き下がらなかつたのは力や暴力で問題を解決する行為を許すことができなかつたからだと言え、家族で話し合いをしようと投げかけました。もともと話をすることが上手ではないこの子と私の間の出来事を話す時、できるだけ私が話さない方がフェアだろうと考えたからです。

夫が先にこの子から話を聞いてくれていました。「何か、父ちゃんに言うことあるやろ」と声をかけ、話していました。夕食後、夫が「お母ちゃんと仲直りしたの？」と言うと「えっ、もうした」と言います。会話をしたら仲直りなのかもしれません。「お母ちゃんに謝ったのか？」と聞くと、茶化したように謝るので、家族から突っ込まれていました。

私が「何で、怒ったかわかる？」と聞くと「宿題しなかつたから」と答えます。「そうではないよ。この家では、力や暴力で何とかしようとする事は認めないからね」と伝え、「テレビをつけたのは何故？」と尋ねると「見たかつたから」と返ってきました。「見たかつたからじゃないよね。お母ちゃんに消されたからつけたのだよね？」と話を続けていくと、どうしたらいいかわからないような表情になっていきました。「人

が怒っていることを別のことでごまかそうとするのは良くないよ。この家では言葉で話し合っていくからね。次に同じようなことがあったら、自分の部屋で考えてみて」と伝え、最後に握手をしました。これで仲直り。

子育てをしていて、子どもと握手をして仲直りした経験は初めてでした。その後、この子のゲームのルールを家族で話し合っ



決めました。平日は、宿題が終わってからする。休日は、もう止めなさいと言われたら止めるというシンプルなものです。この子自身が実行できそうと思えるかどうかで決めました。この子は、「これからは、ちゃんとするから」と言う時が、何回かありました。「ちゃんとする」という言葉が抽象的過ぎて、その場しのぎの言葉に聞こえました。ハードルが高い目標を立てても意味があると思えなかつたので、ゲームをしてもいい時間まで決めていません。児童養護施設では、ゲームは1日1時間で、職員がゲームを管理していました。家庭では、ある程度子どもが何をしているのか把握できるので、様子を見ながらゲームとの付き合い方を学んでくれればと思っています。この先、大人がゲームを管理しなければならなくなるかも知れませんが、まずは見守りからスタートしてみます。ゆっくりと一步一步、この子と歩調を合わせているようです。

この子に、「お母ちゃん辛かつたから、もう二度とあんなことをしたくないと思っている」と伝え、「あなたも辛かつたよね」と話しました。バトルの後、この子が私の膝の上を犬2匹と一緒に取っ合っています。「ゲームを取ったくないから、宿題してね。わかっているよね。」

と声かけしています。イライラが募る感じではなく、のんびりと行きましようという雰囲気が変わっていきました。いつまで続くかわかりませんが、雨降って地固まるというところでしょうか。

養育者の気持ち

今回、上手く回っていないなと感じた時、私の中に迷いがありました。それは、母親としての役割と仕事としての感覚のどちらを優先してこの子と向き合うべきかという迷いでした。

養育里親ですから、家庭での子育ては、実子と同じような感覚に傾くことが多かったです。一緒に暮らすのだから、少しでも母親らしいことをこの子にしてやりたいと私が願ったのです。実子と同じようにこの子と接していると、いろいろな部分で実子の時とこの子とのズレを感じました。

例えば、実子に「〇〇するの止めて」あるいは「〇〇して」と頼めば、すんなりと止めたり、してくれたりしますが、この子は言われればどんな些細なことでも言われたことの逆をします。以前に「言う事を聞くのが嫌なの？」と尋ねたことがあります、「ううん」と首を振りました。この子を見ていると、何か言われると条件反射のように反対のことを身体がしてしまうようです。この部分は、実子の子育ての中には体験してこなかった大きなズレの部分でした。そのズレを感じながら、母親としてこの子に接していこうとするとイライラが募り、自分は求められていないと感じていきます。夫に懐いている姿を見ながら、夫のように上手く立ち回れない自分を駄目だと感じ、気持ちに余裕がなくなっていく、周りの人がいくら甘えているのではないのと助言をしてくれても、それを受け入れる余裕が全くありませんでした。この流れを変えな

いといけないなと感じ始めていた矢先の出来事でした。

今回のバトル後、母親としての感覚から仕事モードに切り替えました。意識をして母親感覚を隣に置き、仕事モードでこの子を冷静に観察するところから始めました。意識を変化させると、この子が何か言われると動けなくなるなら、言わなければいいと気づきます。

例えば、この子が学校に行きやすくするために登校時間が近づくと、私がバタバタと家事をして、この子の登校のための行動に注目しないように変えました。内心、ハラハラしていますが、自分で準備して出かけられる子です。私は、玄関で「いってらっしゃい」と見送ることが母としての役目だと無意識に感じていたように思います。それをするためには、玄関を出る時にこの子のそばで見送らなければなりません。ドアで見送ることに目的を置くと、この子が登校するまでの間、ずっとこの子に注目し続け、言ってもなかなか動かないことに苛立っていくという悪循環になります。母親としての役割にこだわらなければ、いってらっしゃいを言えない日があっても、遠くからしか声をかけられなくても、この子に注目をせず、早くしなさいと声を変える回数がぐっと減ります。言ったら余計に動けなくなるのであれば、言わない方が利口です。言われなくても、この子が自分の力で登校できる体験を積む方が、よほど意味がありますし、この子を認めていきやすくなります。

こうして、私達二人の関係が落ち着いてくると、笑い合う時間も増えていきます。犬と私の膝の上を取り合い、きょうだい喧嘩のようにしていると、この子が甘えているという言葉がそうだったのかも知れないと私の中に入ってきます。当たり前のことですが、関係が良好になれば、情の部分は後からついてくるのです。先に母親の役割にこだわったことで、優しくなれなかったのだと反省をしました。この先どうなる

かわかりませんが、現時点でこの子は、わかりやすい甘え方をしてきません。目が合えば、顔を隠しますし、身体をさすろうとすれば逃げていきます。この子は、私が思っているような母親を求めているのです。そのような中でも、私の膝に頭をのせてきたり、身体をくっついたり、私の視界を遮るように顔をのぞかせる姿が少しずつ出始めてきています。

この子と私の衝突は、お互いにとってほろ苦い経験として残るでしょう。この衝突がなければ気づけなかった自分の未熟さを痛感します。親になるときも、いろいろな失敗を重ねていったことを思い出します。この衝突は、失敗だったかも知れませんが、失敗を恐れてはいけないのでしょうか。失敗したら、やり直せばいい。その失敗を何回も繰り返すのは愚かですが、修復していくその過程の中で賢さを身につけていけばいいのだと学びました。

